



進路だより

令和5年12月22日
岐阜盲学校
進路支援部 No. 2



9月から始まった2学期も、早いものでもう年の瀬を迎えようとしています。皆さんにとっては、どんな2学期になったでしょうか？

学年や立場に応じて、それぞれにいろいろな学びがあったことと思います。その学びをしっかりと定着させ、3学期や新年度、そして自身の進路の実現につなげて行ってほしいと思います。



【自己認識と他者評価】を大切に

就職を目指す生徒の皆さんは、今までどんな経験をし、今何ができるのか、これから何がやりたいのか、しっかりと整理ができているでしょうか。そして、「〇〇ができる」というレベルは、一般社会で仕事として通用する評価が得られるものになっているでしょうか。

先天的な視覚障がいから見え方の違いが比較できない、あるいは少人数の学習が主で比較対象がない、一人で出歩く経験がない等、本人の責任ではないところで自己認識や自己分析が難しい場合もあります。しかし、採用する企業側にとっては「しかたないね」「まあいいや」というわけにはいきません。企業は、求めるレベルまで達していないものを「できていない」と認めてはくれません。最低賃金が払えるだけの働き方か、店頭に並べて一般の人が買う気になるレベルのものが作れているか、どこまで手助けなしで一人でできるのか、などの視点をしっかりとみつことが重要となってきます。客観的な基準に照らして、今の自分と求められる力の差異を親子でしっかりと見極める必要があります。

職場見学や実習等を通して自己認識を深めるとともに、他者評価を得る機会を作っていますが、それだけでは十分とは言えません。普段の日常生活の中での経験を増やし、認識を深めていくことが必要です。

そして、十分な自己分析と深い自己認識を基に、目指す就職に向けて歩みを進めて行って欲しいと思います。



2023年が終わりに近づいてきました。今年度の進路に関わる小学部の活動の中から、次の2点をご紹介します。

1 中学部授業見学（先ばいの話を聞き隊）

6年生を対象に中学部の授業見学を行いました。参観させてもらった授業は英語です。授業では、パソコンを活用して、英会話を聴いたり、単語の意味を調べたりしていました。その後、中学部の先ばいへ日常生活などについて質問をしました。

2 キャリア・パスポート

5月と10月にキャリア・パスポートを作成しました。今の気持ちや今後の自分についてなど、自分で自分の気持ちと向かい合う大切な時間です。次回の実施予定は2月です。

進路について気になること、悩んでいることがあるときは、ぜひ気軽に進路担当や周りの先生などへ話しかけてください。それでは、よいお年を。2024年も元気に会いましょう。



2学期の取組を紹介します。

2年1組の生徒が9月26日に理療科見学、10月24日に普通科授業見学を行いました。

また、11月8日は1組及び2組の生徒が当校高等部卒業生による講話「先輩の話を聞く会」に参加し、卒業生が社会に出て感じたことや在学中に育むと良い力等について聴講しました。参加者からは積極的な質問が挙がり、活気のある会となりました。

これらの取組は、今後2組で計画している事業所見学と併せて、生徒一人ひとりが中学部や高等部卒業の際の進路選択の参考となるように設けられたものです。納得のできる進路選択に向けて、このような機会を通して、自分の進路について考えてみると良いのではないのでしょうか。

普通科1組

1組では、9月に「先輩の話を聞く会」を実施し、12月には「職場見学」として、名古屋ライトハウス光和寮と豊通オフィスサービス株式会社を訪問させていただきました。

講師の先生や先輩方からは、「高等部在学中に身につけておくべきこと」や「コミュニケーションの大切さ」等、自立した社会人として生きていくためにどのような力が必要とされるのか、具体的なエピソードを交えながらご助言いただきました。

「職場見学」では、講話に加え、様々な施設・設備や職場環境を見せていただいたり、体験させていただいたりすることで、現在の自分の生活と比較したり、自分の興味・関心を広げていくことの大切さを再認識したりして、卒業後の将来に向けたイメージを膨らませることができました。

冬季休業中は、今年度、学び、経験を通して得られたものを振り返るとともに、進路目標の決定・実現に向けて、新しい年を具体的にどのように過ごしていくか、決意を表明し、行動してくれることを願っています。

普通科2組

2組では、校内作業実習や現場実習を通して働く力をつけるとともに、総合的な探究の時間や生活単元学習の時間には、働くために必要なコミュニケーションやマナーの学習に取り組みました。

先輩の話を聞く会では、身近な先輩が社会に出て頑張っている姿を見て刺激を受けました。また、自分のことを相手に伝える方法やコミュニケーションのテクニック、生活リズムの作り方、余暇の過ごし方などを学ぶことができました。

冬季休業中は、今年学んだことや頑張ったことを家族の皆さんとたくさん話してください。そして、これから進路実現に向けて頑張ることについても、ぜひ話をしてください。

理療科

「ムツボシくんの点字の部屋」について

今回は点字使用のみなさんにスポットを当て、学習に役立つサイトを紹介したいと思います。

みなさんは、点字の学習参考書や問題集が少ないなと感じたことはないですか？また、もっと多くの問題集にチャレンジして自己の学力をさらに向上させたいと思ったことはないですか？

この「ムツボシくんの点字の部屋」は元宮城教育大学教授、長尾 博先生が運用されているサイトで、学習参考書や問題集の点訳データが数多く格納されています。

点訳データは「点字で学ぶ小学生のみなさんのための点訳データ集」、「同中学生」、「同高校生」、「ちょっとおもしろ点訳データ集」に分かれており、スクリーンリーダー使用者でも閲覧しやすくなっています。

書店には多くの学習参考書や問題集があふれていますが、点訳されたものはさほど多くないのが現状です。担任の先生や教科担当の先生と相談し、このサイトを活用してみてください。

<https://mutubosikun.boy.jp/>

○サイト運営者略歴

長尾 博

1958年滋賀県生まれ（チキンラーメンくんとは同級生）。

滋賀県立盲学校の教諭として約30年、幼稚部から小学部・中学部・高等部普通科、そして理療科といった盲学校のすべての学部・学科にて指導。主な担当領域・教科は、「自立活動」、「中高社会科」、「盲重複教育」、「盲情報教育」、地域支援のため県内を巡回相談。

その後、滋賀県立視覚障害者センターにて就労支援員、滋賀大学教育学部非常勤講師を経て、2013年度より宮城教育大学特別支援教育講座教授。

現在は近隣諸大学にて非常勤講師（学校心理士、点字技能師、京都・観光文化検定1級）。